

エラスムス・ムンドゥス ユーロカルチャー・プログラム修士課程 奨学生募集要項 2014



エラスムス・ムンドゥス奨学生として、
ヨーロッパ各地の大学に留学してみませんか？

豊富なカリキュラムを通じ、現代ヨーロッパの文化・社会・政治について、
EU 圏内の複数大学で多角的に学べるプログラムです。大阪大学大学院文学研究科では、
毎年プログラム参加者を募集しています。

大阪大学では、EU 圏の複数大学へ留学する奨学生を募集しています。

選考を通過した学生は、二年間で **48,000 ユーロ(約 630 万円)** の奨学金を得て、留学することができます。(返還の必要はありません)

～選考の流れ～

① 2013 年 11 月 8 日(金) 応募書類の提出締め切り



② 2013 年 11 月 14 日(木)
第 1 次選考(於大阪大学)
書類審査および面接



③ 2013 年 12 月(予定)
第 2 次選考
(ユーロカルチャー・プログラム
運営委員会)
書類審査
(スカイプ面接が課される場合有)



④ 2014 年 2 月
採用決定

※基準スコア

TOEFL 580 (IBT:92)、IELTS6.5、もしくはケンブリッジ英検 (CAE) C1 以上が望ましく、この段階の選考においてはいずれかのスコアを証明する書類の提出が必要です。書類の発行に時間がかかることが予想されますので、応募をお考えの方は余裕を持って準備をしておいてください。

なお、応募書類の中でも特に、**留学の動機 (motivation paper)**と英文レポートのサンプルが審査の際に重視されます。

留学の動機に関しては、どれほど本プログラムの趣旨に合ったものであるのか、英文レポートに関しては、応募者が十分な英語での論述能力を有しているかが審査のポイントとなりますので、この点を十分に考慮しつつ作成するようにしてください。

(ユーロカルチャー・プログラムの趣旨に関してはユーロカルチャー・プログラムのホームページも参照してください。

URL:<http://www.euroculturemaster.eu/Prospectivestudents/Default.aspx>)

2012 年度の奨学金実績は、

①登録料(入学金・授業料・保険料)として 16,000 ユーロ、

②毎月 1,000 ユーロ、

③旅費その他の諸費用分として 8,000 ユーロです。

なお、入学に際し、①登録料(入学金・授業料・保険料)はユーロカルチャー修士課程コンソーシアムの事務局が置かれているグローニンゲン大学に納入されます。

ユーロカルチャー修士課程

「ユーロカルチャー修士課程」(Euroculture Master Programme)では、下記の12大学がコンソーシアムを構成しています。

EU 圏内 8 大学 (8 European Institutions)



ウプサラ大学(スウェーデン 1477-)

Uppsala Universitet / Uppsala University

オロモウツ大学(チェコ 1573-)

Univerzita Palackého v Olomouci / Palacký University in Olomouc

クラクフ大学(ポーランド 1364-)

Uniwersytet Jagielloński w Krakowie / Jagiellonian University in Krakow

グローニンゲン大学(オランダ 1614-) *コンソーシアム事務局

Rijksuniversiteit Groningen / University of Groningen

ゲッティンゲン大学(ドイツ 1737-)

Georg-August-Universität Göttingen / University of Göttingen

デウスト大学(スペイン 1886-)

Universidad de Deusto / University of Deusto

ウーディネ大学(イタリア 1978-)

Università di Udine / University of Udine

ストラスブール大学(フランス 1621-)

Université de Strasbourg / University of Strasbourg

EU 圏外 4 大学 (Third Country Partner Institutions)



インディアナ大学・パーデュー大学インディアナポリス(アメリカ合衆国 1969-)

Indiana University Purdue University Indianapolis

プーネ大学(インド 1949-)

University of Pune

メキシコ国立自治大学(メキシコ 1910-)

Universidad Nacional Autónoma de México / National Autonomous University of Mexico

大阪大学(日本 1931-) Osaka University

ユーロカルチャー修士課程に入学すると、上記 EU 圏内 8 大学のうち 2 つの大学で 2 年間学び(阪大からの EU 圏外 3 大学の選択は不可)、課程を修了すれば Master of Arts の学位が与えられます。また、第 II セメスターの終りの 6 月には 8 大学のいずれかにおいて、後述の集中セミナー(IP: Intensive Programme)が開催されます。授業は原則として英語で行われることになっていますが、デウスト大学・ウーディネ大学・ストラスブール大学ではそれぞれスペイン語・イタリア語・フランス語で指導が行われる場合もあります。詳しくは、以下の公式 HP を参照してください。

<http://www.euroculturemaster.eu>

ユーロカルチャー修士課程の概要

学生はまず EU 圏内 8 大学のいずれかに登録します。ユーロカルチャー修士課程には、研究コース(Research Track)、そして専門職コース(Professional Track)の 2 つのコースがあります。いずれも 2 年間 4 セメスター制からなり、期間中に 120ECTS(単位)を取得します。第 II セメスターと第 III セメスターの間に、「集中セミナー(IP)」が行われます。これは、ユーロカルチャー修士課程の全学生と、多数の教授が参加する 10 日間の国際セミナーで、毎年 EU 圏内 8 大学のいずれかを会場にして開催されます。

なお、本課程修了生の多くは、EU 諸機関や NGO といった国際機関のほか、外交、教育、文化行政、出版・報道など多様な分野において活躍しています。また、博士後期課程へと進学し、さらに専門性を高めようとする修了生も少なくありません。



ユーロカルチャー修士課程の目的

The MA Programme “Euroculture, Europe in the Wider World” aims to prepare graduates from all over the world for professions and research areas in which knowledge of present Europe and the European Union institutions are of relevance. The focus of the programme is on cultural and social developments, the political process of European integration, values, citizenship and cultural identity. The programme teaches students the methods and skills required to identify the European dimensions of social problems, to collect and process relevant information of European institutions and organisations and to reflect on the cultural aspects and factors that play a role in the process of European identity formation and European integration. (公式 HP より)

ECTS について

ECTS: The European Credit Transfer and Accumulation System (単位互換積算制度)

ヨーロッパ単位互換積算制度とは、プログラムの目標達成に必要な学習量にもとづく、学生本位の単位システム(Student-Centred System)です。フルタイムの学生が1学年の間に修得する総単位を 60 単位とする、という原理に基づいています。ヨーロッパにおけるフルタイムの勉強プログラムのために学生に要求される課業の総時間は、一般に1年間 1,500 時間から 1,800 時間であり、個々の科目の単位は予め公示されたプランに基づき認定されることになります。

Eurocompetence とは

Eurocompetence とは、ユーロカルチャーの学生に自らの職業生活を準備させ、専門職の分野での就職可能性を高めることを目的とする、ユーロカルチャー独自の学際的な単位科目です。その学習内容は、プロジェクトに関連した特別なケース・スタディとグループワークによって、学問的スキルと専門職の分野での知識を統合することに注意を向けさせるものです。

具体的には、(I)課程の修了に必要なとされる様々な主要能力の訓練、(II)グループ・プロジェクトの実行を通じた、多文化コミュニケーション能力の訓練、そして(III)個々のプロジェクトへの応用、から成っています。(I), (II)にはそれぞれ 5ECTS、(III)には 10ECTS が配当されます

ユーロカルチャー学位取得までの流れ

第 I セメスター (9 月～1 月) **30** ECTS [滞在先は登録大学(Home University)]

EU 圏内 8 大学のいずれにおいても、共通の入門科目として主要科目(Core Courses)及び Eurocompetence 科目が開講されています。10 月頃に第 II セメスターの受入れ大学を決定します。

- Core Concepts of European Society, Politics, and Culture^[1] (25)

- Eurocompetence I (5)

[注 1] 大学別の開講科目と単位数の例(2011-2012 年)は以下の通り。

Cultural History: Domains of European Identity (10/Groningen), **Euroculture: Historical, Religious and Linguistic Perspectives** (12/Uppsala), **Citizenship, Migration, Multiculturalism in Europe** (5/Krakow), **European Union Law** (5/Udine), **History of Religion** (2/Strasbourg)

第 II セメスター (3 月～6 月) **25** ECTS [滞在先は EU 圏内の別の大学(Host University)]

この期間は、事前に専門分野に応じて選択した 2 つ目の大学に滞在します。Eurocompetence 科目はどの大学でも継続されます(5ECTS)。修士論文の作成を開始します。

- Eurocompetence II (5)

- Research Seminar: Europe in the Wider World^[2] (10)

- Methodology & Theory Seminar (10)

[注 2] 主題は、滞在する大学の専門分野に依る。

集中セミナー (6 月) **5** ECTS [EU 圏内 8 大学のうちのいずれかで実施]

集中セミナーでは 10 日間にわたって、第 I・第 II セメスターで学習したことを主題に、学術的・社会的観点から研究発表・討論が行われます。

- IP Participation (5)

第 III セメスター (9 月～12 月) **30** ECTS [滞在先は Home University/Host University]

このセメスターで、学生は更に文化・社会・政治などに関する研究を深めます。研究コースの学生は研究セミナー(25ECTS)を受講し、専門職コースの学生はインターンシップ(25ECTS)に従事します。またセメスター終了時には修士論文のアウトラインを提出します(5ECTS)。

- Research Seminar/Internship^[3] (25)

- Thesis Outline/Proposal (5)

[注 3] 研究コースの学生は研究セミナーを、専門職コースの学生はインターンシップを受ける。

第 IV セメスター (2 月～6 月) **30** ECTS [滞在先は Home University/Host University]

最後の Eurocompetence 科目(5ECTS)を履修します。また、6 月 1 日までに修士論文(25ECTS)のファイナルドラフトを指導教員に提出し、指導教員のコメントを基に 7 月 1 日までに完成させます。

- Eurocompetence III (5)

- Master Thesis (25)

学位の取得

ユーロカルチャー修士課程に参加し、必要な単位(120 ECTS)を修得した学生は、Home University と Host University の両方から修士号(Master of Arts)を受けることができます。

応募要領と選考

○応募資格

大阪大学大学院文学研究科の推薦を経てユーロカルチャー修士課程(2014年9月～)に応募できるのは、以下の方です。

大阪大学の卒業者(見込みを含む)、大阪大学大学院の在籍者・修了者(大阪外国語大学外国語学部卒業者および同大学院修了者を含む)で、ユーロカルチャーに関連する分野で学士号を取得した者。

※例えば地域研究、カルチュラル・スタディーズ、国際関係論、歴史学、宗教学、言語学、文学、哲学、政治学、法学、人類学、心理学、社会学、その他の関連する研究

※応募の目安となる英語力としては、TOEFL 580 (IBT:92)、IELTS6.5、もしくはケンブリッジ英検 (CAE) C1 以上であることが望ましく、いずれかのスコアの証明書を大阪大学に提出していただきます。ただし、応募資格とはせず、それ以下のスコアであっても応募可能です。

○応募書類

応募者は、下記の要領で書類1～9を提出しなければなりません。

1. インターネット上の応募画面に必要事項を入力し、ブラウザの印刷機能を使って入力事項の確認画面を印刷してください。(下図は入力画面の見本)

(※2014-16 への申請画面は10月中旬公表予定。

参考:2013-15 への申請画面

<http://www.euroculturemaster.eu/AdmissionsFinancing/Onlineapplicationtool2013-15/Default.aspx>)

2. 卒業証明書ないし卒業見込み証明書(英文)

3. 成績証明書

(英文・学部および大学院)

4. 履歴書(英文)

5. 留学の動機

(英文・スペース込みで4000字(characters))

6. 英文レポートのサンプル

(A4で7～8ページ程度。テーマは任意)

7. 推薦書

(英文・2名からの推薦書。

1名は大阪大学の教員とする)

8. パスポートのコピー

9. TOEFLもしくはIELTS、CAEの証明書

10. カラー写真(パスポートサイズ1枚。

写真の裏に氏名をローマ字で記載すること。)

※5と6は選考の際特に重視されます。

○応募期間

2013年10月21日(月)

～11月8日(金)(17時まで)

○書類提出先

文学研究科教務係

○募集人数

若干名

The screenshot shows a web application form titled 'Initial questions:'. It contains several sections with questions and pre-filled answers:

- Did you apply for the Euroculture Programme before?** Answer: No
- Do you want to apply for an Erasmus Mundus scholarship?** Answer: No: I want to apply as a self-financing student
- Will you complete your BA degree before September 2013 and be able to provide us with scans of your diploma and transcripts of records by then?** Answer: Yes
- Preferred partner universities:**
 - Preferred university 1: Rijksuniversiteit Groningen
 - Preferred university 2: Uniwersytet Jagielloński w Krakowie
 - Preferred university 2: Università degli studi di Udine
- Key personal details:**
 - Name: Handai, Taro
 - Date of birth: 01/05/1990
 - Gender: male
 - Disabled: No
 - Marital status: Single
 - Number of children: 0
 - Email address: inter@iet.osaka-u.ac.jp
 - Mobile number: 09068506409
 - Address: 1-15 Toyonaka Machikane
 - Postcode: 5608532
 - Town: Toyonaka, Osaka
 - Country: Japan

At the bottom, there are two buttons: '<< Back' and '>> Continue'.

○留学期間

2014 年 9 月前後(留学先の大学によって学期開始時期は異なる)から 2 年間

○選考

書類選考と面接により推薦者を選抜します。

面接は下記の要領で行われ、語学力と留学の動機が重視されます。

面接日時:2013 年 11 月 14 日(木)13 時より(予定)

集合場所:文学研究科国際連携室(文法経本館 1 階)に 12 時 50 分までに集合

○選考結果

文学研究科教務係掲示板にて発表します。採択者に対しては別途通知します。

※なお、大阪大学による選抜の後に、ユーロカルチャー・プログラム運営委員会による審査があります。その際、スカイプによる面接が行われる場合があります。

○問い合わせ

文学研究科国際連携室(Tel.06-6850-6409、e-mail: inter@let.osaka-u.ac.jp)

単位の互換・その他

留学期間中の身分および単位の互換

ユーロカルチャー修士課程に参加して、関係大学に留学する場合、大阪大学大学院生は本学の留学制度(単位互換制度)を利用することができます。ユーロカルチャー修士課程で履修した単位を、大阪大学文学研究科では所定の手続きを経た上で 10 単位まで修了単位として換算することが可能です。そのためにはユーロカルチャー修士課程の登録料と、大阪大学の授業料を納める必要があります。

留学中の宿泊について

留学先での宿泊に関しては、その大学の学生寮が使用できる場合もありますが、そうでない場合、各自で探す必要があります。

学生寮の使用の可否に関しては、留学先の大学に問い合わせてください。

EU とエラスムス計画

欧州連合(European Union: EU)では同連合加盟各国の大学間で大規模な人的交流を進めています。これを「エラスムス計画」(Erasmus Programme)と称します。この計画は欧州共同体(European Community: EC)によって 1987 年に開始され、The European Community Action Scheme for the Mobility of University Students の略から ERASMUS と命名されたとされています。



Erasmus Mundus

EU と世界:エラスムス・ムンドゥス計画

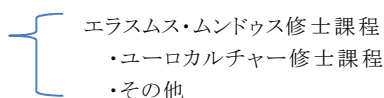
ムンドゥス Mundus とはラテン語の「世界、宇宙」を表す語です。エラスムス計画にこの語を添えた「エラスムス・ムンドゥス・プログラム」(Erasmus Mundus Programme)とは、欧州連合内の各大学と欧州連合外の諸大学との人的交流を図る、いわば「エラスムス計画・世界版」です。

この計画のもとに、欧州連合内の様々な大学がチーム(コンソーシアムと呼ばれます)を組み、多くの「エラスムス・ムンドゥス修士課程」(Erasmus Mundus Master Programme)が提供されています。各コンソーシアムに応募して採択されれば、欧州連合外の学生がヨーロッパ内の 2 つの大学で学ぶことができます。



エラスムス計画・エラスムス・ムンドゥス計画・ユーロカルチャー修士課程の関係

- ・エラスムス計画
(欧州連合内での大学連携)
- ・エラスムス・ムンドゥス計画
(欧州連合とその他の地域の大学連携)



参加学生体験談

河内 彩香

国際公共政策研究科 博士前期課程

2012-2014 年度、エラスムス・ムンドウス(ユーロカルチャー・プログラム)参加者の河内彩香です。第 1 セメスターはスウェーデンのウプサラ大学、第 2 セメスターはオランダのグローニンゲン大学で過ごしました。今現在、IP (Intensive Programme)でポーランドのクラクフにきています。

ユーロカルチャー・プログラムの最大の魅力は、異文化交流を通じて学習できる環境だと思います。ヨーロッパ圏内に限らず、世界中から集まった学生と多様な考え方や意見を交換しながら授業が行われています。私は以前、自発的にクラスの前で自分の意見を述べるのが苦手だったのですが、何度も話し合いやプレゼンテーションを重ねるごとに、積極的な学習態度やコミュニケーション能力が身に付いてきたように思います。また、クラス内での学習だけでなく、研修旅行でベルギーのブリュッセルを訪れ、EU 機関や NGO 団体を訪問するなど、貴重な体験をすることができました。

このプログラムに参加するまで、国際関係(特にアメリカ政治)を専攻していたので、自分の基礎知識のなさから、文化的視点から見たヨーロッパ研究を難しく感じることもありましたが、ユーロカルチャー・プログラムは非常に学際的なプログラムなので、新しい視点を取り入れながら、自分の興味のある研究を進めることができますと思います。

大阪大学はユーロカルチャー・プログラム提携校の一つなので、授業の中でも日本について触れられることが多いのですが、他のアジア諸国に比べて日本人参加者が非常に少ないのが現状です。今後このプログラムに参加しようと考えている阪大生のみなさん、ユーロカルチャー・プログラムはヨーロッパ事情を学ぶだけでなく、日本の視点や考えを他国から来た学生と共有できる絶好の機会です。是非積極的に参加を検討してみてください。



左:IP 期間中の公式夕食会
(2013 年 6 月クラクフにて)
右:グローニンゲン大学から
ブリュッセルへの研修旅行

